

LIBRA SQUARE

Book

最近、おもしろかった本

『世界でもっとも美しい10の科学実験』

ロバート・P・クリース 著 青木薫 訳 日経BP社 2100円(税込)

偉人たちの発想や努力に驚嘆 感動を覚える「美しい」科学実験

本書は、ある雑誌の誌上アンケートに基づいて、「美しい」と評価される科学実験の上位10の実験について書いたものである。

「地球の外周の長さの測定」「地球の重さを量る」「光という波」「地球の自転を見る」「電子を見る」…など、各章に付けられた表題を読むだけで、それぞれの実験の壮大さを窺い知ることができる。いずれも科学において極めて重要かつ一般的にも有名な実験であり、いくつかの実験はすでにその内容をご存じの方も多いのではないだろうか。

現代においては、地球の外周の長さや地球が自転していることなど至極当たり前のこととして受け入れられている事実であるが、宇宙空間に出る術など夢のまた夢という時代において、初めてこれらを実験により実証することには多くの困難が伴ったことは想像に難くない。本書は、これらの実験がどのようにして実現に至ったのかを詳しく述べており、偉人たちの発想や実験の実現に至るまでの努力に驚嘆させられる。



ただ、本書の特徴的なところは、「美しい」科学実験について書いた本であるというところである。「美しい」とは何を意味するかについては多くの考え方があるだろうが、感動を覚えるものであることにあまり異論はないだろう。また、実験が「美しい」ということには否定的な意見もあろうが、初めて顕微鏡をのぞいたときの気持ちを思い出していただきたい。そこには少なからず、知の発見による感動があったはずだ。

理系分野に関する本は苦手だという方も、本書に記載された10の実験は、「1個の電子の量子干渉」を別とすれば高校までの知識で十分その「美しさ」を堪能していただける、つまり感動を覚えていただけるものと思う。理系分野に関する本を普段あまり読まない方にも、ぜひご一読いただきたい1冊である。

(会員 廣木 康隆)

Cinema

心に残る映画

『この森で、天使はバスを降りた』

1996年／アメリカ／リー・デビッド・ズロートフ監督作品

少し何かが嫌になった時、 1人でそっと観たい佳作

原題は、「THE SPITFIRE GRILL」。刑務所から出所した、パーシーという若い女性が、メイン州のギリアドという田舎町に降り立つところから物語は始まる。邦題は、この最初の部分を指しているのだろうということは、観始めてすぐに想像が付く。

パーシーは、ギリアドでハナという老女がやっているレストラン「THE SPITFIRE GRILL」の住み込み店員をさせもらう。ギリアドという荒廃しつつある小さな田舎町では、外から来た「刑務所帰り」のパーシーを不審な目で見るが、パーシーはとにかくこの地でやり直そうと、頑張り、ギリアドの町の人々も少しずつ明るくなっていく。ある日、レストランを売りに出したいが、なかなか買い手がつかないということを知ったパーシーは、作文コンテストをしようと持ちかけるが…。

パーシーを演じるアリソン・エリオットが、素晴らしい。ハスキーな声にタバコをくわえ、がさつで「天使」には似つかかわしくないパーシーを、純粋でひたむきな1人の女性として魅力的に演じている。また、パーシーの周りの女性達も非常に魅力的。ハナといい、ハナの甥嫁のシェルビーといい、この作品はとにかく

女性が元気。夫（ウィル・パットン演じるハナの甥っ子。これがまた人間臭い悪役でいい）から「頭が悪い」と言われ続けていた内向的なシェルビーが、パーシーの影響で次第に自分を出していく様子も、つつい自分と重ねてしまい(?)共感ももてる。

もう1つの見所は、メイン州の壮大な自然美。映画の中で、「神々が美しい土地だと聞いて見に来た場所」と言われるだけあり、ちょっとした背景から絵になっている。森は観だけでも癒しの効果があるのかもしれない。強いて言えばもう少し、ロングショットがあってもよかったか。

最後の方の、パーシーの運命については賛否両論あるところだろう。最初に観たときには少し驚くかもしれない。

それでも、観終わった後には、不思議と爽やかな感情が残る。母親の、子に対する愛情はすごい、そんなことを感じる非常に前向きなラストがいい。

東京の大都会で働き、少し自然が恋しくなった時や、少し何かが嫌になった時、1人でそっと観るのには最適な佳作である。

(会員 墨岡 亮)

『この森で、天使はバスを降りた』
DVD
価格：2100円(税込)
発売元：ワーナー・ホーム・ビデオ

